

●秋のコンサート

中大法学部で、一般教養の音楽と基礎演習(ゼミ)「音楽劇の比較研究～オペラ、ミュージカル、歌舞伎への誘い」を担当しております、作曲家の二宮玲子です。

昨年11月16日、女性白門会主催の『オペラアリアと二重唱の夕べ』に出演いたしました。(於スタジオこひなあた)出演者は新進気鋭のバリトン西脇央氏(昨年から中大附属高校でも教鞭をとっておられます)とソプラノの菅野真貴子氏、そして私はピアノ伴奏と解説を担当。

最初の二曲はイタリアオペラ、ロッシーニとベルディのアリアの名曲。

菅野氏は長年ヨーロッパで修行され、名ソプラノ、ルチアナ・セツラに師事。この数年、中大法学部の音楽の講義で拙作オペラ『道成寺』(台本:長屋晃一)の鬼気迫る清姫をフルート&ハープと共に演じられています。

ロッシーニ作曲『セミラーミデ』でも本格的コロラトゥーラの技巧が余す事なく披露されました。

続いて演奏しましたのは、2014年初演のMABOROSI～オペラ源氏物語(作劇:林望、作曲:二宮玲子)のダイジェスト版。

昨年、仙石恵子氏から紹介されました西氏は、柔らかく美しく豊かな声で端正な容姿、理想的な光源氏の出現となりました。ゆくゆくはオリジナルのオーケストラ伴奏のシンフォニックオペラで美声を轟かせて欲しいと思っております。

女性白門会の皆様、何卒宜しくお願いいたします。

(二宮玲子)



●私たちの虎に翼の会

2025年3月29日(土)15時30分から、駿河台キャンパス 学員会会議室にて、「私たちの虎に翼の会」を開催しました。NHKの朝の連続テレビドラマ小説「虎に翼」に触発された企画です。女性白門会の会員であり、弁護士である、第20期司法修習の宇田川濱江先生(1960年卒)と宮崎治子先生(1964年卒)、第21期司法修習の杉井静子先生(1967年卒)をパネリストにお迎えし、宮園久栄会員がコーディネーターを務めた。多数の会員のほか、ロースクールに進学する学生等3人にも出席していただいた。

パネリスト3人が在学されていた当時の中央大学は、たとえば、1963年度の法学部(昼)の卒業生1188人のうち女性性は56人という時代であり、第20期司法修習生のうち女性性は28人、第21期は女性18人という時代であった。

宇田川先生は、小田原中学・小田原高校の先輩である山崎源三氏の後を追いかける形で、大学に入学。玉成会に入室し、弁護士を目指された。宇田川先生にとっては、司法修習同期の28人の女性との強い結束、子ども連れで一泊旅行をしたりといった交流が有意義であり、今でも、同期の方たちとはできる限り会うようにしているとのこと。

杉井先生は、女には教育はいらないと言われ、女学校にも行かせてもらえなかったというお母さまから、「女でも仕事を持ちなさい」と常々言われていたことから、高校の時に弁護士を目指すことにされた。大学在学中に合格。結婚し、子供を産んでから、男性に比べ女性性は損とずっと思っていたが、ある日「杉井さんは、産休とる度に元気になるね」と言われ、はっと気がついたそうです。休むことなくずっと働き続ける男性よりも、一度立ち止まって考える時間があるという点では、リフレッシュすることができたということ。

宮崎先生は、お父様が戦死され、お母さまが慣れない農業で苦労され、そのお母さまから「手に職をつけなさい」と言われたこと、女性蔑視の風潮が残る地方で、親友と「男性女性ではなく、人間として生きたいよね」と話していたことから、法学部を目指された。修習時代の名古屋の検察庁舎には女性トイレがなかったり、同時代の弁護士の中には「女性には相談したくない」と言われたりした方もいらしたそうです。

学生たちからは、法曹三者の中で、なぜ弁護士になろうと思ったのか、女性法曹が少ない環境の中で、女性であることを意識したことや、ハンディを感じたことはあったか、最近の女性法曹をめぐる状況に変化はみられるかといった質問があり、先生方からつぎのようなお答えがあった。

当時は、女性の裁判官や検察官は望まれていなかった時

代であった。弁護士という仕事は人の話を聴くことが大事で、女性だからダメということはなく、むしろ業績主義に陥りがちな男性法曹よりも女性の方が弁護士に向いているともいえる。仕事上、女性だからということこそ意識することはなかったが、妊娠・出産・子育てについては、男性との差を感じることはあった。特に、子育ては女性がするものという時代であったため、子どもを預けることができないときに、仕方なく裁判所や会議に子どもを連れて行ったこともあった。仕事を長く続けることができた理由としては、弁護士は自らの仕事の調整ができること、一つとして同じ事件はなく常に学ぶことがあり、退屈することはなかったこと、裁判官や検察官と異なり定年がないことなどが挙げられる。

また、出席者からは、妻が世帯主となること、共同親権の問題、夫婦別姓の問題、子育てや介護の社会化、保育の質や量の充実、子育てに寛容な社会のあり方などに関する質問や意見が寄せられ、活発な議論が展開された。

最後に、3人のパネリストからこれからの人たちに言えることとして、結婚しても子どもを産んでも仕事を続けること、現状に甘んじることなく、女性差別撤廃条約などの国際社会の状況にも目を向けつつ、声を上げ続けることが大事であることが伝えられた。

今回、宇田川先生、宮崎先生、杉井先生からお話を伺うことができたことは、女性白門会にとって貴重な経験となりました。これからも、様々な経験を積んでこられた会員の皆様のお話を聴く機会を設けたいと思います。皆様からの企画のご提案をお待ちしております。

(藤野美都子)



●2025年度総会・懇親会のご案内

下記の通り、総会・懇親会を開催いたします。皆様にお目にかかれることを楽しみにいたしております。同封の葉書にて、出欠についてお知らせください。

1. 総会
と き 2025年8月2日(土)15時から
ところ 中央大学駿河台キャンパス18階学員会会議室
次 第
1. 来賓のご挨拶
2. 中央大学の近況について 中島康予常任理事
3. 学員会の近況について 植野妙実子学員会副会長
4. 審議事項
1) 女性白門会役員改選について
2) 今年度の活動計画について
10月 芸術鑑賞
11月 ウイングの会
26 年1月～2月 新年会
2月～3月 ハイブリッド形式による学習会
3) 2024 年度決算
4) 2025年度予算
5. 報告事項
1) 24年度女性白門会の活動報告
2) 会員の皆様の近況報告

懇親会
と き 2025年8月2日(土)17時から
会 費 6,000円
と ころ イタリア酒場でらんち
TEL: 03-3259-7600
〒101-0052 千代田区神田小川町2-6 小池ビル1F
東京メトロ銀座線 千代田線 B3出口 徒歩8分

連絡先 仙石恵子 090-8686-8549
藤野美都子 090-1421-3466

※ご友人、ご家族の同伴を歓迎いたします。

【年会費納入のお願い】
同封の振込用紙にて、年会費4,000円をお納めいただきますようお願い申し上げます。